

2年生公開授業

10/12(木)は2年生の国語科公開授業『ニャーゴ』が行われました。

授業

2年生は『ニャーゴ』の学習に入って音読の練習を宿題はもちろん、授業開始にも短い時間を使って全文を読むようにしていました。児童はとても音読が上手になってきています。本時でもまず始めに“ねこのたま”と“三匹の子ねずみ”にわかれて、音読からのスタートでした。

“ねこのたま”には「ニャーゴ」というセリフが3回あります。子ねずみと出会ったとき、子ねずみを食べようとしたとき、最後に子ねずみに桃をもらい別れるとき。児童にどのセリフが好きかを理由と合わせて考えさせワークシートに書き、まずは隣の友だちと交流。その後全体でそれぞれ理由を言いながら、好きな「ニャーゴ」のセリフを発表。その中で「ニャーゴ」のセリフについて児童のとらえ方が様々で、中には違いに気づかず“ニャーゴ”っていうセリフは、どれも同じ。”という意見も、そのつづやきから3つの「ニャーゴ」のセリフの違いについて教科書の本文に戻りしっかり前後を読み、違いについて考えました。その読み取った違いを言葉の確認だけでなく、実際児童に動作をさせイメージを全体で共有し、3つの「ニャーゴ」の違いについて読みを深めていました。最後に児童それぞれが本時をふりかえり、何回目の「ニャーゴ」をどのように工夫して読むか、ワークシートに自分でまとめ学習を終えました。



（動作化 それぞれが工夫）

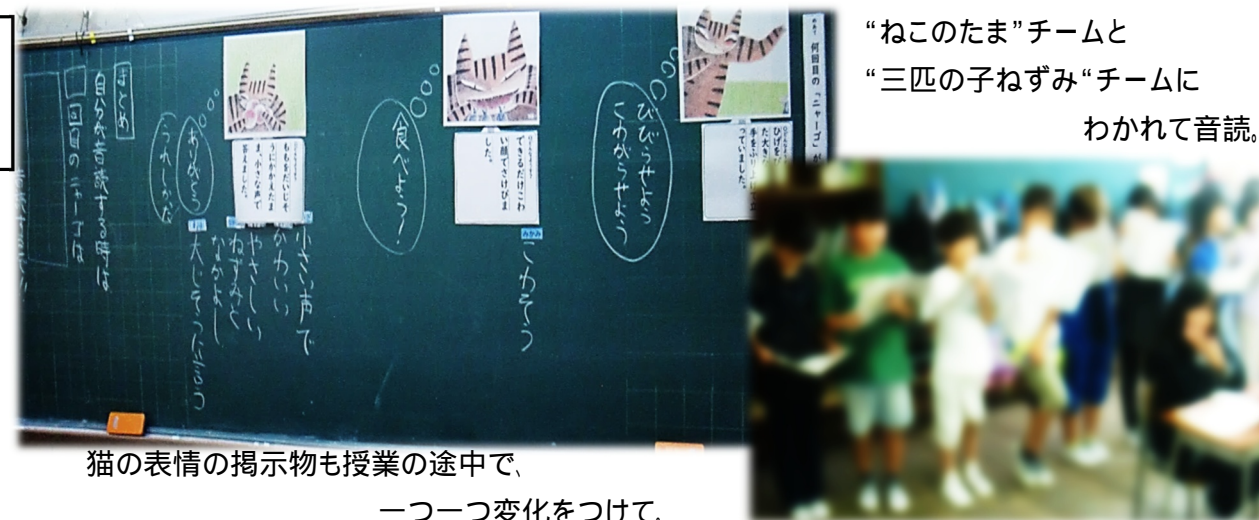


“～できるだけこわい顔で さげびました。
そして「おまえたちを食べてやる」と 言おうと～”

”ねこはももを だいじそうに
かかえたまま 小さな声で～”

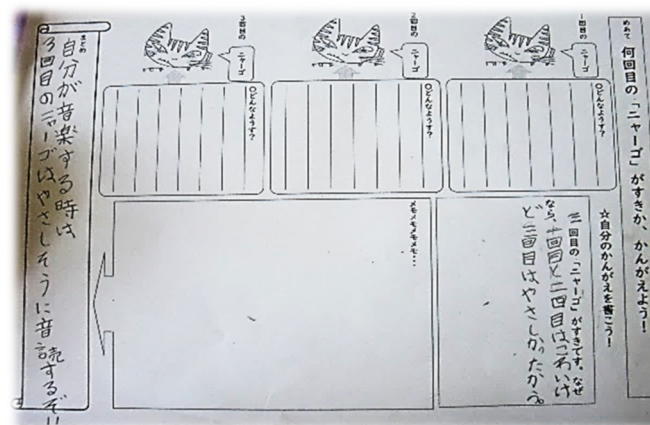
低学年ブロック会・事後研

事前のブロック会では指導者から、「ニャーゴ」と叫んだ時の様子を読み取った後どの「ニャーゴ」が好きか理由もあわせて考えさせる展開でしたが、本時では流れを大きくかえ児童に



猫の表情の掲示物も授業の途中で、
一つ一つ変化をつけて、

ワークシートには次回の音読の工夫を学習のまとめに。（注元の猫のイラスト）



→「ニャーゴ」の違いに気づいてもらうため好きなところを考えさせ、そこからの展開をイメージし授業を進めた。児童のふりかえりの時間をじっくり取れなかったが、授業最初と最後では「ニャーゴ」の音読が明らかに違ったという、授業後の振り返りでした。

参加者からは動作化を取り入れることによる読みの深まりや黒板にはる猫の

表情を大切にしたい掲示物など視覚的に工夫された授業だったことや、指導者が授業展開を綿密にシミュレーションし計画がしっかりしているので、児童のつづやきをうまく拾い授業展開していたことがよかったなどが意見として出ていました。また『どの「ニャーゴ」が好き?』という発問の『好き』という言葉の難しさや言葉足らずの発問によって児童が少し困惑した場面などをあげ、あらためて発問の難しさ・大切さも意見として出ました。そして何より児童の自然なつづやきや一生懸命な動作、大きな声での音読など安心して学習に向きあっている姿は、日々の積み重ねの表れといった意見も出ました。じっくり読みを重ねなくても児童が心情を読み取り、「ニャーゴ」のセリフの違いを感じ取ることができた授業でした。

低学年のブロック会・事後研では、

動作化や具体的な掲示物など、視覚的な物は読みを深めるためあらためて効果的である。発問によって展開がかわる難しさ・大切さ、一つ一つ発問の言葉を大切にする。児童のつづやきを拾い授業展開ができるような綿密な計画と安心して発表できる学習空間。心情の違いを見つけるため本文に戻り根拠をおさえ、読みを深める、

などを確認し、事後研を終えました。